

## 第6回 小金井市産業振興プラン策定委員会 議事録

日 時 令和4年3月14日（月）午後6時～午後8時

場 所 小金井市役所第二庁舎8階 801会議室

出席委員 11人

委員長 中庭 光彦 委員

副委員長 斉藤 浩 委員

委 員 森 文香 委員 清水 薫 委員

高松 結花 委員 田中 千鶴枝 委員

西川 亮 委員 大坪 正直 委員

山城 裕路 委員 今井 啓一郎 委員

鴨下 勇司 委員

欠席委員 なし

---

事務局 市民部長 西田 剛

経済課長 高橋 啓之

産業振興係長 鈴木 拓也

株式会社国際開発コンサルタンツ 氏原 茂将

---

傍聴者 なし

### 議事

#### 1. 開会

#### 2. 議題

##### (1)パブリックコメントの実施結果及び寄せられた意見に対する検討結果について

事務局が資料1を用いてパブリックコメント結果について説明した。

中庭委員長 地元目線で大事な意見が寄せられていると思う。回答はそつがないと思う。委員会での回答ということになるが、これでよいか。加除修正があるようなら、指摘いただきたい。

清水委員 意見をいただいたことに対する感謝の意は申し添えた方がよいのではないか。

中庭委員長 担当部署に伝えるという回答は主体性がないようにも思う。

今井委員 回答はこのような内容かと思う。そもそもパブリックコメントはこのぐらいの数なのか。

事務局 前回策定時のパブリックコメントは1件だった。小金井市では、政治的な関心が集まる内容であれば多くの意見が寄せられる。産業振興プランに関しては、そのような関心が高いというわけではないと思う。今回は、安心して出かけられることを目標とした結果、自転車駐輪場の意見が寄せられた。この意見によってプランを変更することはないと思うが、まちづくりと結びつけた結果だと思っており、傾聴に値すると考えている。

中庭委員長 土地などの財産にかかわる計画に関するパブリックコメントは多くなる傾向にはある。

斉藤副委員長 20ページに自転車に関する記述が見当たらないが、どの記述に関する意見なのか。

事務局 パブリックコメントで公開された際とページ数が異なっている。本日の資料では12ページである。

中庭委員長 自分も大事な意見だと思うので、「いただいたご意見については」の前に、「重要な意見であると思う。」といった内容を追記いただきたい。そのことで委員会としての受け止めを示しておきたい。

斉藤副委員長 武蔵小金井駅の放置自転車のことを考えると、再開発によって自転車駐輪場ができたことで、南口では放置自転車が少なくなった。一方、北口はまだまだ散見される。ほとんどが民地なので附置義務などの指導を行政にやってもらわないといけないと思う。公有地はないので、民地の利用を誘導するしかないと思う。

中庭委員長 誘導するとは書けないとは思いますが、駅北口の状況も踏まえて担当部署に伝えるという趣旨が分かるようにしてほしい。また、武蔵小金井駅北口の状況に関する副委員長の認識は議事録に残し、異動等があっても庁内で引き継がれるようにしてもらいたい。

事務局 承知した。

## (2)産業振興プランの最終案について

事務局が、資料2と資料3を用いて、最終案と概要版について説明した。

中庭委員長 計画の最終案について何か意見をいただきたいが、その前に修正点について説明をいただきたい。

事務局 6ページに記載のある6つの方針の1行目の「仕組みの1つ」という表記があるが、パブリックコメント前に斉藤副委員長から、それ以前に仕組みが示されていないので分かりにくいという意見をいただいたので、修正した。それ以外は正式名称への変更といった修正である。

今井委員 用語解説に「商店会」が含まれていないが、何か意図はあるのか。

事務局 「商店会」は追記する。

中庭委員長 一般的には商店会は場所だと思っていて、組織という認識がないので、そのような説明をしてもらいたい。

西川委員 11ページに道草市のプラットフォーム化の各主体の役割に「主催する商業者、農業者」とあるが、主催者は協会なのではないか。「出店者」のような表現の方がよいのか。

19ページの「工業事業者の受注、納品における連携」の文章の2行目の「そのような場合」の指している内容が分かりにくいので、修正した方がよいと思う。

中庭委員長 道草市の「主催する」という文言はどうするか。

事務局 立ち上げ時には協会が主催していたが、現状、協会は支援をする立場に移行することも検討している。次回実施する道草市は商業者・農業者が主催することになっている。また、主体も入れ替わっていくことを想定している。

中庭委員長 表現は現状のままでよいのか。

事務局 いま説明させてもらったことがより伝わりやすい表現を検討する。

中庭委員長 「協会」も分かりにくいのではないか。すべて「観光まちおこし協会」を書き続けた方がよいと思う。「主催する商業者、農業者」は、どう考えるべきか。

事務局 商業者、農業者だけが主催するわけではないと思う。幅のある表現が望ましいと思うので、時間をいただいて検討したい。

中庭委員長 19ページに対する指摘はいかがか。

事務局 指摘のとおりと思うので、修正案を検討する。

今井委員 113ページの「黄金井あきないクラブ」は括弧でくくってもらえると分かりやすいと思う。正式名称は「黄金井商いクラブ」だったかと思うので、改めて確認いただきたい。

中庭委員 プランの修正はいつまで可能なのか。

事務局 来週水曜に案の策定報告を行うので、今週中に案を固めたいと考えている。

今井委員 小金井市は人口密度が全国8位と聞いたが、それは小金井市を取り巻く状況に追記することはできないのか。

中庭委員 マンションが多く建っているからだと思う。商圈があるということだろう。

事務局 人口の増加率では上位を占めているとは聞いている。

今井委員 商業的なチャンスがあるということが言えるとよいと思う。

斉藤副委員長 コロナ禍で市内にとどまっている傾向があるなら、人口も増えていて、それが市内にとどまっているということが言えるとよいと思う。

大坪委員 正式な名称になっていない箇所が見られる。10ページにある「小金井阿波踊り大会」とあるが、「おどり」とひらがなで表記することが正式である。

事務局 19ページにある「facebook」は頭文字が大文字である。

事務局 確認して修正したい。

斉藤副委員長 人口密度を追記するならどこがいいか。

事務局 3ページの小金井における変化に追記するのはどうか

斉藤副委員長 人口密度が増えているというのも強みとして1行ぐらい追記できるとよい。

森委員 15ページの「商業と福祉、教育、農業、地域コミュニティの連携促進」の最後に「小金井市の特徴でもある教育や農業を取り込み」とあるが、特徴となる教育とは何か。

事務局 現行の産業振興プランを策定する際に教育産業が多いという特徴が把握されていた。小中学校の学力も高く、大学も立地しているという趣旨である。

森委員 自分は小中学校の教育をイメージしていた。人によってイメージすることが違うかと思う。

事務局 産業振興としては大学教育との連携を模索していたが、小中学校の教育を考えないということではない。いろいろな分野の教育との連携があつてよいと思う。

教育的特徴について説明がなされないまま記載しているとは思うので、「商業と福祉、教育、農業、地域コミュニティの連携促進」の説明文で多様な主体と連携していくという趣旨が伝わるように工夫したいと思うが、いかがか。

中庭委員長 教育は強みなので、教育との連携を図ることが分かるようにしてもらった方がよいと思う。森委員はいかがか。

森委員 そのようにしてもらえればよい。

清水委員 「⑥事業・活動を継続していくための仕組みをつくる」の第三段落の末尾が「求められます。」と結ばれている。主体的に取り組む姿勢が感じられない文言だと思う。20ページの商工会に期待される役割に記載されていることと同じことだが、市の取組ではないと思うので、取組内容として適当なのか。

事務局 ご指摘の部分については山城委員からご意見をいただいているところであり、反映させている記載である。

清水委員 商工会が中心となって検討していくという表記はどうか。

事務局 「商工会が…検討していきます。」というのは、こういった事業は市ではできないという想定のもと、役割を担うなら商工会ではないか、という意図がある。

清水委員 商工会が検討していくという表記だと、市の取り組みの内容としてはふさわしくないように思う。

事務局 プランの主語が市だけでなく、商工会や商店会など担い手が色々いるので、必ずしも主語が市にならなくてもいいプランとしている。

山城委員 ご指摘の箇所はどのような文言になるのか、改めて確認したい。

事務局 語尾を「組織化していく取組について検討していきます。」という修正にしたいと考えている。

山城委員 文中の「自社」は分かりにくいので「事業者」に変更した方がよい。あと、商工会にプッシュするような文章にした方がよいと思う。

中庭委員長 「求められます。」という言い方の方がプッシュしているということか。

山城委員 「組織化に取り組んでいきます。」というような具体的にやることを示した

文言の方がよいと思う。

中庭委員長 明日までであれば修正も間に合うということなので、何か気づいたことがあれば指摘してもらいたい。

今井委員 事業者にとっては、やる気が高まるようなデザインではないと思う。

事務局 事業者の方は計画書自体を見てもらえればよいと思っている。概要版は市民の方に手に取ってもらいたいと思っている。

清水委員 概要版のデザインがよくなっていることは評価できる。

中庭委員長 黄色の黄金のマルは、デザインのキーとして使い倒した方がいい。黄色のマルで統一していった方がわかりやすいだろう。

事務局 案ではあるが、目標なので的っぽくしてみたようだが、読みにくいのは事実と思う。

中庭委員長 説明しないと分からないデザインはよくない。ぱっと見でわかるかどうか重要である。

齊藤副委員長 ベース案の2枚目までは決まっているのか。

事務局 案2や案3のテイストを出していてもいいという話しはしていた。ただ全体を案2のようにしていくと、うるさくなってしまいうだろう。

山城委員 配布はもう少しい紙にして、このサイズで配るのか。そもそも誰がどのようにして手に取るのかがイメージできない。

事務局 概要版については、このプランを市民に認識してもらうことが目的である。プランの本体については、商工会、協会、JAなどを通じて事業者に周知すると考えている。

山城委員 配布方法は市役所に置いておくことになるか。

事務局 市役所と駅のラック、公共施設、あとはまちおこし協会を通じて色々な施設に置いてもらう予定である。

大坪委員 普段あまり見ない駅のラックに置いても意味はないのではないか。

事務局 このデザインはラックに入れた時にタイトルが見えないようになっている。ただ、産業振興プランというタイトルが見えても手に取らない。黄色いマルで目立つだけにすることで、手に取ってもらう機会を増やせるのではないかと考えている。

今井委員 市民には手に取ってもらえないと思うので、事業者や市役所内でしっかりと届くようにしてはどうか。

中庭委員長 市民が一般的に見るような内容でないとする。意味合いとしては長期総合計画の期間における商工業、農業を含めた基本的な背骨部分になるので、これから何か予算を採りたい人たちは、これをよく読む必要はあると思う。そういった需要がなければ読む必要はないだろう。

今井委員 年間を通して会議などで配られることが多くなるだろうから、粗くても内容が分かりやすいものであれば助かる。市民向けにデザインすると、事業者が使いにくくなると思う。

事務局 今回は計画書も薄いので、文章は多いが読み物としては読みやすい冊子と

してある。概要版は議会や地域の会議で使えるような簡素な縮約版としてもいいのではないかという話しはしてきた。

- 今井委員 今回の計画書は見やすいから、概要版はなくてもいいのではないか。
- 中庭委員長 概要版は概略しか書かれていないので、これを見せられても説明できない。
- 山城委員 産業振興プランと書いてあると、市民は事業者向けだと受け取るだろう。それなら表紙に「小金井に活気を生み出したい」といった文章とイラストでアピールしてはどうか。意識が高い人なら手には取るだろう。ただ産業振興プランというタイトルは事業者向けに受け取られてしまう。
- 齊藤副委員長 やる気のある人や参加したい人には届くものでなければいけない。まさに魅力を生み出すものは“人”であり、それを楽しむ人を求める、といったメッセージがあればいい。事業者には、結論として何を、どうやればいいのかを伝えるようにし、方針を書くだけでなく、継続している事業や今後のアイデアなどを具体的に入れておけばイメージしやすいだろう。
- 山城委員 新しいことをしたいと思っている人がいるとして、その人が仮に冊子を手にとったときに、自分もその計画に加わりたいと思ってもらえたら成功だと思う。
- 今井委員 小金井の魅力を語っているが、街の形はどこにも出てきていない。小金井市の地図があって、その中を中央線が走っていて、というイメージするものがどこにもない。今後は小金井市自体をよく知らない人も増えてくるのではないか。
- 森委員 デザインはどちらがいいかは判断がつかないが、金のマルで駅を埋め尽くして、絶対に目に入ってくるようにして、そこにQRコードをつけてはどうか。詳しく知りたい人は、そこから情報を取ってもらえればいいと思う。
- 中庭委員長 市民向けなら「小金井にみんな集まれ」といったキャッチコピーがないとわからない。ここにSNSのQRコードをつけておくのはどうか。
- 事務局 役割を明確にすることが大切だと考える。計画書を読みやすいデザインするという話はこれまでしてきたと思うが、さらに概要版をつくるのか。それとも駅に貼り出せるようなPR用の媒体をつくるのか。事業者がじっくり読むもの、関心のある市民を巻き込むためのもの、広く市民に周知するものという3つの役割について話されてきていると思う。それであれば3つつくってもよいのではないか。
- 中庭委員長 それは、いつまでにつくらないといけないのか。
- 事務局 3月中には作成しないとイケない。
- 中庭委員長 この委員会では決まらなさそうだが、どうするか。
- 事務局 市民向けならチラシのようなものを別途つくってもいいのではないか。一方、事業者向けには縮尺版を作成してはどうか。
- 中庭委員長 まずは求める内容を決めておかないと、收拾がつかなくなるだろう、最終的には誰に向けて発信するのか、そこに向けてベース案をどう修正するのか、ということだろう。

斉藤副委員長 一般市民向けにつくること自体に無理がある。興味がありそうな人に取ってもらえるようにした方がいいだろう。

今井委員 7ページなどは何の意味があって入っているのか、わからない。

事務局 前回の委員会で出た図を掲載している。

中庭委員長 まずは市民向けに出すことに対する疑問について、いかがか。

斉藤副委員長 広報みたいなかたちで発信するのは無駄だが、興味のある人は手に取れるようにできればいいのではないか。

森委員 冊子で置いてあってもほとんどの人は手に取らないと思う。市民に見せることが目的なら、駅にチラシを貼ってQRコードで読み込みさせるのが、紙も無駄にならず1番いいと思う。無駄になると分かっている紙に税金を使うのは良くない。

中庭委員長 QRコードがあれば、この内容が読めるのか。読めるならQRコードでいいだろう。

森委員 高齢者は市役所などで冊子を手に取ることになると思う。

中庭委員長 チラシに印刷物の配布場所を書いておけば、QRコードがわからなくても手に取る機会は増えるだろう。

大坪委員 一般の人からすると、商工会と言われてもわからない。冊子には普通に使われている用語を理解できる人は、まちづくりの意識がある人と言えるだろう。もし一般の人が興味を持ってもらえるようにするなら、例えば表紙に「地域産業の設計図できました」といったキャッチフレーズを入れてはどうだろうか。そこに興味を持った人が読んでくれれば、一般市民を巻き込んだものにできるし、一般市民の中でも興味のある人に届くことになるだろう。

中庭委員長 委員会の意見としては、計画書の本体の作成、駅などにQRコードがあるポスターを貼り本体に誘導する、という内容が大枠の意見でいいか。それを具体的にどうするのかについては、事務局に一任する、ということにしたい。修正したものは、委員会で確認した方がいいか。

事務局 修正したものは、確認いただきたい。

中庭委員長 それはメールで周知いただくこととする。産業振興プランの全体デザインについても意見をいただくところだが、どうするか。

事務局 番号のついていない資料は、計画書をデザインしたものである。パブリックコメント前には、少しでも計画書が見やすくなるという意見があったので、見た目を整えている。構成の都合上、一部を見開きとしているが、文章がページをまたぐようにはしていないのでスマートフォンでも閲覧することもできる。

中庭委員長 表紙の金色のデザインは変わる可能性があるのか。

事務局 相談する。ただ計画書なので、プランの名称は必ず書かなければいけない。デザインは加えた方がいいか、今までのものの方がいいのか、ご意見を頂きたい。

森委員 資料番号のついていないデザインの方が分かりやすいと思う。QRコードをきっかけに読む人には、やわらかい感じがしている。

清水委員 資料番号のない方が、枠組みがはっきりしていて読みやすい。

高松委員 やる気のある事業者にはいいと思うが、チラシのQRコードから読む人からすると、スマートフォンで読むには量が多いと思う。

事務局 これまでの意見交換を踏まえると、事業者は計画書を読むとして、産業振興や地域での活動に少し関心を持っているという人向けの媒体が求められていると感じている。それであれば、資料番号のない方のデザイン版からプランの体系や方針などのページを抜粋してもいいのではないか。完全な縮約版はワードで書類として作成しておく、という考え方はいかがか。

高松委員 先ほどまでの図案だと内容が薄く感じるが、今の提案内容であれば興味も持てるだろう。

大坪委員 まさにその通りだと思う。

山城委員 デザイン版の方がよいと思う。

今井委員 資料2は一般的にはウケはよくないと思うが、使い勝手はいい。

鴨下委員 資料番号のないデザイン版の方がいいと思う。

中庭委員長 デザインについては新しい方を採用するとして、今井委員が想定しているような使い勝手については資料2の方に求めるということになるか。

事務局 これまで事務局としては本体と概要版という考え方でいたが、3種類にしてはどうか。計画書は今井委員の意見を踏まえて資料2とする。概要版は市民が手に取って、読んでも分かりやすいものにしたいので、ある程度デザインしたものとする。そして、もう1点は、チラシのようなものをつくって周知を図り、概要版や計画書を手に取ってもらえるようにするということだが、いかがか。

今井委員 チラシじゃなくてポスターでいいと思う。役所などの主だったところに貼っておいて、汚損したら予備を貼り換えるくらいに感じはどうだろうか。

事務局 駅にポスターを掲示することは難しいかもしれないが、検討する。

今井委員 連合会の掲示板もあるので、活用できるとよいと思う。

事務局 駅にはデジタルサイネージも設置されているので、その利用も相談してみよう。

中庭委員長 それでは、計画書、概要版、チラシないしはポスターなどの周知媒体の3種類ということとする。この内容で事務局は作業を進めていただきたい。最後に事務局から何かあるか。

事務局 今後の流れは、本日の意見を踏まえて事務局で計画書を修正する。修正案はメールで送付するので確認いただきたい。最終的に決定した計画書は3月23日15時から市長に報告する予定である。委員長と副委員長は同席する予定だが、他の方もぜひ参加いただきたい。

中庭委員長 せっかくならみんなで集まって、記録に残した方がいいだろう。本日は最後となるので皆さんの感想をお願いしたい。

- 鴨下委員 自分は農業に関する意見を提起しただけだったが、いろいろなことが書かれていて楽しみになってきた。
- 今井委員 今後プランを活用させてもらいたいと思っている。
- 山城委員 楽しい議論をさせてもらえたと思っている。所属している団体にも配りやすい冊子にしてもらいたいと思う。
- 大坪委員 一般市民の方の意見を聞く機会であり、たくさんの気づきをもたらえた。これからの事業に参考にさせてもらいたい。これらもご縁をいただけるとありがたい。
- 西川委員 こがねいコモンズには継続的にかかわっていくので、プランの実現にかかわっていききたい。
- 高松委員 貴重な体験をさせてもらったと思っている。
- 田中委員 産業振興という言葉も分からなかったが、委員会を通じて交流ができ、学ぶことも多く、楽しかった。完成したプランは周囲に伝えていきたいと思う。
- 清水委員 市民として行政のプランにかかわることは貴重な体験だった。つくるだけで終わらずに、みなさんといっしょに、自分も何か活動をして、プランの実行に力になりたいと思う。
- 森委員 商工業にかかわっている方が小金井市をよくしようと思っていることを知った。市民として力になればよいと思う。
- 斉藤副委員長 観光まちおこし協会の代表として出席しているが、今後想定されることはプランに盛り込めたと思っている。大坪委員が言うように、普段は事業者だけで議論するので偏りが生じるが、女性の方や子育てをしている立場から意見をいただいて勉強になった。観光まちおこし協会の事業にもかかわってもらえればと思っている。
- 中庭委員長 斉藤副委員長がいったとおり、プランを実行していくことが大事だと思う。この委員会はざくばらんに話してもらえたことがとてもよかったと思う。行政の委員会は堅苦しいことが多いが、市民のみなさんからも意見をいただき、楽しい会になった。こういったなかから、おもしろいことが生まれると思う。今後もプランを周知してもらい、継続的に話し合いをさせてもらいながらプランを実行させてもらえればと思う。

### 3. 閉会